

経済

イ ガンクク
李康国 (立命館大学)イ ガンクク
李康国 著

『李康国の経済散策：大韓民国 99%のための経済学の話』（チェックセサン、2015年）

이강국 지음『이강국의 경제산책 - 대한민국 99%를 위한 경제학 이야기』（책세상, 2015년）

本書は、立命館大学の李康国教授が『ハンギョレ新聞』紙上で2011年から3年以上にわたって連載したコラム「李康国の経済散策」をまとめ、編集したものである。筆者はコラムの内容に豊富な説明と多くの資料を追加し、未発表原稿も加え、誰もが簡単に読むことのできる経済エッセイの本として出版した。李は長きにわたってグローバリゼーションと経済発展、そして成長と分配の相関関係に関する研究を行ってきた。特に2014年には、世界的に話題となったトマ・ピケティの『21世紀の資本』の韓国語版を監修し、近年は不平等の力学に関する研究に力を入れている。

取り上げられるテーマにごとに6部に分けられたこの本は、大衆が関心を持ちやすい韓国経済と世界経済の最も重要な争点を抽出し、生きた経済学を提示する。特に経済学において関心の的となっている主要なテーマについて、お堅い理論や複雑な数値ではなく、日常的な言葉を用いて説明する。まず1部「不平等と貧困の経済学」では、上位1%の人々への所得集中の問題と貧困の悪循環と富の世襲、そして福祉と租税政策など、不平等のさまざまな側面について検討する。2部「激動する世界経済」では、グローバル金融危機以来のアメリカの量的緩和政策、ギリシャとユーロ圏の危機、そして日本のアベノミクスなど、世界経済の巨大な流れを追い、3部「イシューでみる世界経済」では戦争と人口、疾病と肥満、気候変化からスポーツまで、多様で興味深い世界経済についての話をひも解いていく。4部「労働と人々」では、リストラと非正規雇用、最低賃金と労働時間の問題、そして幸福の経済学など、弱者の労働と生活の現実について考察し、5部「経済で読む韓国社会」では植民地支配と国家主導の成長、そして財閥改革の問題など、韓国経済の過去と現在の問題を鋭く分析する。最後に6部「新たな経済学への断想」では、技術革新をめぐる経済学の近年の議論と新たな経済学分野の紹介、そしてピケティの『21世紀の資本』をめぐる熱風と論争を紹介し、新たな経済学が必要であると力説する。

以上のように多様なテーマが取り上げられているが、本書のメッセージは明白である。筆者は、人間を利己的な存在としてのみ想定した市場原理主義の主流経済学は1%の人々のためだけの経済学であり、それが深刻な不平等とグローバル金融危機の背景にあると強調する。したがって、もっと温かく人間的な、99%の人々のための経済学が求められていると主張される。本書はまた、公平と正義にもとづく経済をつくるためには、人々の自発的な認識の変化と、政策転換のための政治的努力が必要であると力説する。筆者の言葉通り、経済は私たちの生活そのものであり、同時に、よりよい生活を送るための出発点として経済を理解する努力が必要である。そのような努力に向けて、本書はまじめに考えるための材料を提供する。

〔翻訳 呉仁済〕



チャン・ハソン 著

『なぜ怒らなければならないのか：分配の失敗が生んだ韓国の不平等』

(ヘイブックス、2015年)

왜 분노해야 하는가 - 분배의 실패가 만든 한국의 불평등. 장하성 지음. 헤이북스 (2015년 12월).

2014年に『韓国資本主義』という著作で韓国経済の現実を鋭く分析したチャン・ハソン教授は、『韓国資本主義』の第2弾となる本書で、深刻化する韓国の不平等について議論する。長いあいだ財閥改革運動を実践してきた著者の韓国経済の不平等問題の分析と解決方法は注目に値する。彼によると、韓国の不平等は何よりも過度な賃金格差による所得の不平等が原因であり、それを解決するためには非正規雇用労働者の劣悪な労働条件を改善し、公正取引など経済民主化のために努力する必要がある。

本書の最大の美德は、何よりも膨大な統計と文献にもとづいて韓国の不平等の現実を生き生きと伝えている点にある。3部と9章からなるこの本では、1部で韓国の不平等の原因、構造と利害関係が明らかにされる。また、2部では不平等を生み出したのは誰で、解決方法は何なのか、そして3部では一体不平等を誰が是正するのかについて考察される。著者はまず、資本蓄積の歴史の短い韓国の不平等は、西欧の先進国とは異なり、財産の不平等よりは所得の不平等によるものであると強調する。実際、ほとんどの家計所得は労働所得、すなわち賃金であり、賃金の格差が不平等をもたらす最大の原因となっている。通貨危機以前の1990年代まで、中小企業と大企業の賃金格差はそれほど大きくなかったが、2000年代以降はそれが急速に拡大している。また、正規雇用の約半分の賃金しかもらえない非正規雇用の拡大により、賃金の格差による所得の不平等はさらに深刻になっている。このような現実を考えると、租税と福祉による所得再分配政策には大きな限界がある。したがって、2次的な分配である再分配ではなく、労働市場における1次的な源泉分配を見直すことが不平等を解決するための本質的問題である。著者が述べているように、韓国の100大企業が企業利益全体の約60%を占めているのに雇用は約4%しか生まれていないという現実を是正するため、本書は財閥の過度の利潤と高い賃金をすべての中小企業と非正規雇用で分配するための政策的努力を強調している。特に韓国の不平等は、政策と制度の変化によって改善することができ、そのための政治的努力が重要であると力説する。

不平等に関する分析が示された後、著者は不平等を解決するための主人公として、既成世代〔中高年世代〕ではなく、未来の主役である青年世代の役割に注目する。失業に苦しむ韓国の青年たちは韓国社会を、富と貧困の世襲が深刻となり金のさじと砂のさじ〔父母の財産によって子どもの経済的地位が決まるという「さじ階級論」(수저 계급론)を表す言葉〕に分けられ、努力しても成功できない、いわゆる「地獄朝鮮」と呼んでいる。しかしこのような青年たちが覚醒し、怒り、世界を変えるために努力しないのであれば、韓国の不平等問題は決して解決されないだろう。したがって著者は、正義にのっとった経済をつくるため、青年世代に怒り、平等を求めて行動することを呼びかけている。

〔翻訳 呉仁濟〕